

所長あいさつ

昨年、豊田理化学研究所は創立80周年を迎え、その歴史に新たなページをきざみました。これもひとえに関係各位のご支援の賜物と、心より感謝申し上げます。この機会に、創設者豊田喜一郎の崇高な想いを今一度、構成員と共有し、新たな学理構築とその発信源としての豊田理研を築いていきたいと思いを。



玉尾 皓平 所長

昨年の年頭あいさつはこのように慶祝ムードで始まったのでした。まさか新型コロナウイルスCOVID-19パンデミックに見舞われようとは思っていませんでした。多くのイベントが中止や延期となる中、インターネット技術の発展の恩恵で、オンライン会議やオンライン講演会などが数年くらいは先取りで一気に普及、実用化されたのはコロナ禍のもたらした恩恵といえなくもありません。オンラインで開催した「フェロー研究報告会」には過去最多の参加者を得るなど、メリットも少なくなく、コロナ終息後もモノによってはオンライン方式が定着する可能性すら感じられました。

そのような困難な中でも、創立80周年記念事業もいくつか実施しました。

「記念植樹」：11月3日「文化の日」に深田池の岸辺に栗の木を植樹しました。栗の木は、堅く重く腐りにくい性質から家屋の土台に用いられていることにあやかり、研究財団の永遠の礎となるように願いを込めたものです。

「豊田理研創立80周年・豊田中研創立60周年記念講演会」を11月11日に、科学技術振興機構研究戦略センター長の野依良治先生をお迎えして、リアルとオンラインのハイブリッド方式で開催し、合わせて600名余が聴講しました。

「豊田理化学研究所80年史」を編纂しました。「60年史」に次ぐもので、その後の20年間の特に井口洋夫前所長時代の豊田理研再興、「自由研究」再生の歴史に的を絞った内容で、3月に発行いたしました。

重点施策の若手育成事業のうち、5年目を迎えた「豊田理研スカラー」を中心とした「異分野若手交流会」もオンラインでの研究紹介方式に変更になりました。本来の1泊2日合宿方式への復帰を待ち望んでいます。2019年度から始めた「海外大学院進学支援制度」では、第1期生2名を、渡航制限のある中、9月末に無事、英国オックスフォード大学に送り出すことができました。現地での感染のリスクにも打ち勝ち、研究面はもとより国際人として大きく成長してくれることを願っています。

人類は、これまで幾度となく経験した感染症大流行を科学技術の力で克服してきました。今回のCOVID-19も必ず科学技術の手で終息させることができます。それが1年後か2年後かもしれません。そのような状況下にあっても、だからこそ、豊田理研はたゆむことなく、科学技術の発展に貢献すべく、しっかりと取り組んでいく所存です。引き続きのご指導、ご鞭撻のほど、何卒よろしく願い申し上げます。

公益財団法人 豊田理化学研究所

所長 玉尾 皓平